

令和七年度鹿屋体育大学卒業証書及び
学位記授与式学長生辞

鹿屋体育大学、体育学部卒業生及び大学院研究科
修了生の皆さん、本日ここに、卒業証書授与式および
学位記授与式を迎えられましたことを、心からお喜
び申し上げます。また、本日まで、ご子息、ご息女を
温かく見守り、ご支援を惜しまれなかった、保護者の
方々をはじめ、関係各団体の皆様方に心からお祝い申し
上げます。

思い起こすに、学部卒業生の皆さんの入学式は、コ
ロナ禍のため、君たちと限られた大学関係者のみでの
実施でした。本日は、皆さんの栄えある門出を、ご来
賓並びに保護者の皆様方と共に祝えることを誠こう
れしく思います。

さて昨年は、平成二十三年に公布された「スポーツ
基本法」が、十四年の時を経て改正されました。そし
て、スポーツへの関わり方やその価値を表現するキー
ワードとして、これまで謳われてきた「する」「みる」「
「楽しむ」に、「集まる」「つながる」が加えられました。
それは、今回のスポーツ基本法の改正において、スポ
ーツの持つ社会的な役割や価値が強調されているこ
とを示すものに他なりません。

スポーツが社会に対し果たす役割やもたらす価値
を具体的に示す例として、スポーツや武道のイベント
の開催による地域の振興を挙げることができます。し
かし、それを実現するためには、まず施設や設備など
の環境を整える必要があります。また、イベントの準
備や運営をするための経費も必要です。そして、それ
ら以上に重要なことは、イベント開催に向けた関係者
に対する働きかけをはじめ、企画の立案、運営、情報
の発信などに携わる人達、そして応援する人などの人
的要素です。すなわち「する」「みる」「集まる」「つな
がる」の各領域を支え最善の状態を機能させる、「楽しむ
る」人の存在無くしては、スポーツや武道が持つ本来
の価値が十分に発揮されるイベントとはなりません。

皆さんは、この鹿屋体育大学でスポーツや武道に関

する専門的や知識や能力を修得されたことにより、
本日、卒業証書あるいは学位記を手にするわけです。

今後は、有償、無償に関係なく、時代に即した倫理観
と社会性を持って、「楽しむ」という立場でスポーツ
や武道の価値を高める役割を担っていただきたい。

学部卒業生の皆さんにとって、本学の卒業は学生ア
スリートからの卒業を意味します。この鹿屋の地での
さまざまなお出立は、人生のなかでは一期一会の一幕
にすぎないかもしれません。しかし、蒼天のもと切確
琢磨した日々の思い出は、この先の人生において決し
て色褪せることはないでしょう。室町時代の能楽の大
成者である世阿弥は、彼の自著である花伝書のなかで、
能役者としての芸の力を花に喩えた一説を残してい
ます。それによると、若くや容姿による一時的な魅力
は「時分の花」、すなわちその時限りの花であり、そし
て長い年月にわたる修行と工夫によって得られる永
続的な芸の力こそ「まことの花」であると記されてい
ます。四月から新たなチャレンジをスタートする皆さ
ん、この先、君たちの闘いは、あらゆる場にあると心
得てください。卒業後、たとえ立場や環境を変えた
としても、ぜひ、スポーツや武道とともに歩む人生であ
り、そして君たち一人ひとりにとっての「まことの花」
を咲かせる人生であることを心から願っています。

最後に、本日、令和七年度卒業証書授与式及び学位
記授与式を挙げるにあたり、ご来賓の方々並びに
保護者の皆様方のご列席を賜りましたことに厚く御
礼申し上げます、令和七年度卒業生及び修了生を祝う告
辞とします。

令和八年三月二十四日

国立大学法人 鹿屋体育大学長

金久 博昭